台湾研修報告書　　芸術学科２年

私が台湾研修に参加した最大の理由は、新しいことや様々なことに挑戦してみようという学校生活における目標があるからだ。なんとなく過ごしてきた大学１年目を終え、２年目を迎えるときに掲げた目標だ。元々海外には一度も行ったことがなく、大学生のうちに初めての海外を経験しておきたかったし、なんでも興味を持ったり好奇心が湧いたものには挑戦してみようという前向きな気持ちで参加を決めた。研修の内容は、芸術分野を学ぶ私たちのためになる内容がたくさん予定されており、台湾の様々な芸術分野に触れ、色々なものを吸収して帰ってこようという目標を掲げていた。

故宮博物院を見学した。世界的にも有名な博物館だということで楽しみにしていた訪問先の一つであった。ポイントを押さえて２時間程で説明してもらいながら見て回ったが、すべてを見て回るには１０年以上もかかると聞き、驚いた。イヤホンを付け、案内係の方の説明をききながら見て回るような見学ははじめての経験で、新鮮だった。案内係の方はとても日本語が上手で、日本の方なのか台湾の方なのか、一見わからないほどだった。故宮博物院の案内係は国家資格だと聞き、またも驚いた。

実践大学を訪問し、校舎の見学をさせてもらったり、学生の作品を見せてもらったりした。実践大学の先生もまた日本語が上手で、とても感心した。服飾分野を学ぶ学生たちによるファッションショーなども見せてもらい、とても台湾の学生の作品は個性が強くひとつひとつ凝っている印象を受けた。私たちは、服飾分野をメインに学ぶ学生で１年間に３、４着の衣装を作っているが、実践大学の学生は半年に６、７着もの衣装を作るときいて、自分たちとの差を痛感した。それだけ台湾の学生は熱心なんだと気がついた。見習わなければいけないポイントだと思う。１年に１冊作っているという実践大学の服飾分野の学生たちの作品を載せた本を見せてもらい、学校にと１冊頂いた。自分たちで作り自分たちで撮影したという本の中の作品は、まるで雑誌の１ページかと思うほどレベルが高く、おしゃれで、センスのいいものばかりだった。私たちも、こういった冊子を作るなどの取り組みをしてみたら楽しいし、実力のアップにもつながるような気がした。他にも頂いたパンフレットや、校内で見かけるポスターなどもとてもデザインが素敵で、勉強になった。日本ではあまり見ないようなデザインが多かったが、斬新ですごく良かった。

実践大学では、北翔大学でいうメディアデザインコースのような、映像などを学ぶ分野を、クリエイティブデザインというらしい。その分野では、何か新しいことを考え、センス良くデザインし、自分で作り出すといったような作品を多く作っている印象を受けた。そこでクリエイティブというのだと思う。たくさんの映像をみせてもらったが、自分で撮影した動画をアニメ風にアレンジしてアフレコをしたもの、光と音楽を組み合わせたライブの動画などが印象に残っている。

タイペイ・アイという京劇を鑑賞した。始まる前に、役者さんのメイクをしている姿を自由に見ることができたりするスタイルが、日本にはないものだと感じた。劇自体は、踊ったり芸のようなことをしながらストーリーが展開されていく仕組みで、おもしろかった。終わってからも役者さん自ら送り出してくれて、役者さんとの距離が全体的に近く感じられて楽しく思えた。

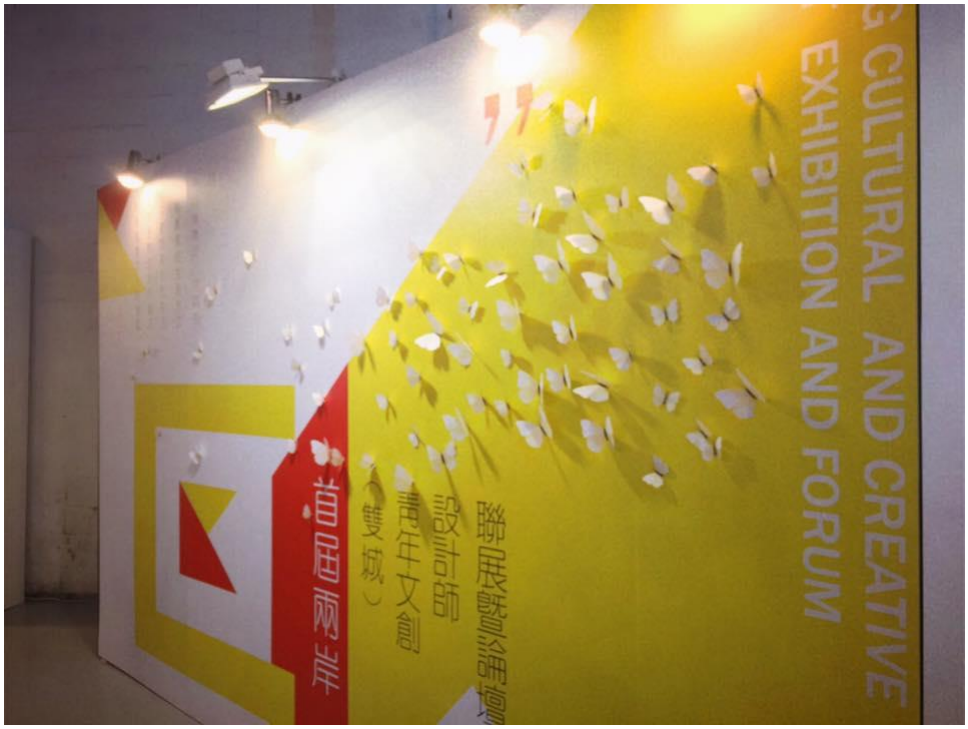
西園２９服飾創作基地を見学した。建物は４階ほどまであり、それぞれショップがあったり工房があったりした。工房では若手の有能なデザイナーのデザインした服を代わりに作ってくれる。それを店頭で販売したりもしている施設である。
この次に見学した、台北服飾快速設計打様中心という工房も、学生のインターンを受けたりと、同じように若手のデザイナーを支援しているというところが素晴らしいと思った。こういった施設や制度を利用することで、夢への一歩を踏み出せる若い人も多いのではないかと思った。日本ではきいたことがないので、台湾独自のやり方に感動した。

油化街の旧市街を少し歩き、この研修旅行の目的のひとつである、後期の授業で制作するウエディングドレスの生地を買いに布市場へ行った。日本とは比べものにならないお店の広さ、ものの量、価格の安さに、驚いてばかりだった。広くて場所に迷う、いいものが多すぎて決められない、と困ることも少しあったが、とてもいい生地が買えて、制作するのが心から楽しみになった。日本ではここまで安くいい生地は絶対に買えないし、大学見学や服飾施設も見学してきたので、台湾の服飾文化のすごさを改めて実感した。歴史の深さが現代にも伝わっているのだなと思った。ここで、勉強してきた中国語が役にたつ時がきた。店員さんとのコミュニケーションが自分でと

れて、いくらですか？という意味の言葉が通じたときは、とても嬉しかった。同時に、伝わらないもどかしさを感じる部分もあり、もっと勉強したいという気持ちも芽生えた。

楽しみにしていた夜市へ行った。想像していたよりもとても大規模で、食べ物ばかりのイメージであったがお祭りにあるようなゲームや、服や雑貨を売っているお店なども並列しており、とても活気があった。やはり若い人が多く感じた。マップを見ながら歩いたが、広くて決められた時間の中で全ては回れなかった。毎日夜までやっている屋台があるというのが、また日本とは違うところだなと思った。日本にもあれば楽しいが、毎日お客さんが来るのか、需要はあるのかなどを考えると、台湾にあるからこそのものなのではと思った。夜市は、ぜひまた行きたい場所のひとつになった。

松山文創園という元は台湾が日本に統治されていたときに作られたタバコ工場だった場所にある美術館の見学をした。建物はかつて日本の技術で作られたものだときいて、台湾と日本との昔からのつながりを感じた。その中には台湾の雑貨のデザインコンテストで優秀な成績を残したデザイナーの作った雑貨が売られているところがあった。素晴らしいと思うデザイン、センスのいいもの、今まで見たことがないが便利だと思うものがたくさんあった。また、考えもしないようなデザインの雑貨（例えばお尻の形をした貯金箱）などもたくさんあった。先生は台湾のデザインはちょっと変でおもしろいものも多いと教えてくれて、納得した。
台北１０１や三越などに入っていたお店は、全て日本にもあるようなブランドショップばかりだったが、併設していた誠品生活松店というところでは、台湾ブランドというのだろうか、見たことがないお店がたくさん並んでおり、新鮮だった。ここにも、台湾らしく個性的なお店や可愛いお店が多く、見ているだけでも楽しめるし、つい欲しくなる商品も多かった。



研修最終日の夜には、台湾式のマッサージを体験した。4 日間の疲れをとるのにぴったりだった。マッサージ師の方々は笑顔で接客してくれて、私たちのつたない中国語や英語にも対応してくれた。私は日本でも本格的なマッサージは受けたことがないので、どういったところが台湾独特のやり方なのかなどは明確に理解できなかったが、とても満足のいくマッサージを受けられた。台湾に旅行に行く人にはおすすめしたい。

４日間の中で、ホテルでの朝食以外は全て外での食事だったので、存分に台湾での食事を楽しめた。お気に入りの食べ物も見つけられた。変わったものもとても多かった。どのお店でも、ほとんどほうれん草の炒め物が出てくるのだが、お店によって味付けが違うのでおもしろかった。デザートの種類には必ずマンゴーがあり、やはり有名なだけあると思った。先生のご両親にご馳走になったお店では、はじめて北京ダッグを食べた。目の前で切って出してくれるスタイルに高級感を感じた。台湾に来る前に調べて食べたいと思っていたものもたくさん食べることができた。楽しみにしていた鼎泰豊の小籠包はとても美味しかった。予約をしても３０分以上待つという。夜市で食べたものでは、顔よりも大きいサイズのタオチーパイというフライドチキンが美味しかった。マンゴーのスムージーも美味しかった。どれも、大きく量が多いのにとても安いという特徴があった。火鍋のお店は、日本円で１８００円ほどで食べ飲み放題、ハーゲンダッツ食べ放題というとってもお得なプランだった。鍋のタレはセルフサービスでたくさんの種類から好きなものを選ぶことができ、ナタリー先生に台湾式のおすすめの作り方でタレを作ってもらったが、とても美味しかった。台湾の食文化を満足いくまで体感できてよかった。

研修全体を通して、台湾はとても日本人にとって過ごしやすく快適なところだと思った。日本語を話せる人も多く、全く中国語が話せなくてもなんとかなると思った。だが私は中国語を授業でも習ったし、研修前にたくさん予習もしたので積極的に使った。やはり、自分でどれだけ勉強したり練習するよりも、実践で覚えるものだと感じた。台湾の人に伝わるように話しているうちに発音を覚えたり、相手の話している言葉をきこうと頑張るので、自然に勉強できている感じがした。そしてもっと勉強したいと思えたことがよかった。

台湾の芸術にもたくさん触れることができ、日本との違いを考えるのが楽しかった。この研修に参加したからこそ、博物院の見学や大学見学などもできて学ぶことが多かったので、本当によかった。最初に述べた通り、挑戦してみて心からよかったと思う。これからは、自分の作品作りやアイデアにも台湾で見たことや学んだことを生かしていきたいし、また違ったことにも積極的に挑戦していきたい。